

あおり運転に対する厳罰化とさらなる対策の強化を求める要望意見書

本年8月、茨城県の常磐自動車道で、男性が執拗なあおり運転を受けて車を停止させられ、容疑者から顔を殴られるという事件が発生しました。また、平成29年6月には、神奈川県内の東名高速道路において、あおり運転を受けて停止した車にトラックが追突し、夫婦が死亡しています。こうした事件・事故が相次ぐ中、あおり運転を初めとした極めて悪質・危険な運転に対しては、厳正な対処を望む国民の声が高まっています。

警察庁は、平成30年1月16日に通達を出し、道路交通法違反のみならず、危険運転致死傷罪や暴行罪等のあらゆる法令を駆使して厳正な取り締まりに取り組んでいますが、あおり運転に対する規定がなく、防止策の決め手とはなっていません。今後は、あおり運転の厳罰化に向けた法改正の検討や更新時講習などにおける教育のさらなる推進及び広報啓発活動の強化が求められるところです。

よって、国においては、今や社会問題化しているあおり運転の根絶に向け、安全・安心な交通社会を構築するため、以下の措置を講じるよう強く要望いたします。

記

1. あおり運転の規定を新たに設け、厳罰化については、危険運転を行った場合のみでも道路交通法上、厳しく処罰される海外の事例なども参考としながら、実効性のある法改正となるよう早急に検討を進めること。
2. 運転免許更新時における講習については、これまでの交通教則による講習に加え、あおり運転等の危険性やその行為が禁止されていること及びその違反行為に対しては取り締まりが行われることについての講習も行い、更新時講習に使用する教本や資料などにこれらの事項を記載すること。
3. 広報啓発活動については、あおり運転等の行為が禁止されており取り締まりの対象となることや、あおり運転を受けた場合の具体的な対処方法などについて、警察庁及び都道府県警察のホームページ、SNSや広報誌などを効果的に活用し周知に努めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年12月17日

北海道余市郡余市町議会議長 中井寿夫

【提出先】 内閣総理大臣、国家公安委員会委員長